



## まちの魅力を伝える 情報発信基地へ

浜益の良さ。それは一言で言えば環境の面白さであり、まさに「日本の箱庭」です。例えば、海や砂浜が広がっているとすれば、すぐ先にはもう岩場のごつごつした海岸線が続きます。また、振り返ると日本アルプスのような山並み、さらにヤマベやサケがそ上する美しい溪流が、わが家のすぐ横を流れているのですから、驚くほかありません。

浜益はかつてニシン漁でにぎわう一方で、温暖で水はけの良い土地柄を利用して、果樹栽培を始めた歴史があります。現在、数は少なくなりましたが、ゆったりとした自然に囲まれた中にある果樹園は、北海道広しといえどもそうはありません。人々が求める観光農園は、収穫を楽しむだけでなく、安らぎの場も求めているはずで、そう考えると浜益でやることには大きな意義を感じます。

私の夢は、ファームレストランを開くこと。大きいえば浜益のことを広く人々に知っていただく一つの「情報発信基地」になりたいですね。しかも、これからは石狩市という新しい看板を背負うわけで、その意味でもよりいいものを作っていかなければという、新たな張り合いができました。

木村 武彦さん  
(浜益区幌在住)

岐阜県出身で、浜益在住歴27年。妻の真智子さんの実家である果樹園にたまたま手伝いに来たのがきっかけで、結婚を機に自身も本格的に経営へ参画。平成2年ごろよりそれまでの果樹栽培農家から、現在の「きむら果樹園」という観光農園スタイルに変更した。



古潭にある「リサイクルファーム」の豚舎にて。ここでは同園利用者も20人働いています。

## 新たな福祉の可能性に 期待しています

今から18年前に知的障がい者援助施設「厚田はまなす園」が開設しました。当時、障がい者は社会から疎外されるなど、まだまだ自閉症や重度の知的障がいのある人にとって地域での暮らしは厳しいものでした。その中で、厚田では早くから私たちのような施設に深い理解を示し、快く受け入れてくれました。地元の方たちも私たちをととても温かく見守り、手をさしのべてくれています。

私たちは、施設という限られた空間の中ではなく、自閉症・知的障がいのある方たちが地域の中で健常者同様、いきいきと暮らしていけるような環境を整えることを目指しています。そのためには、まず、彼らの働く場を確保することが大切です。新生・石狩市への期待もここにあり。これまで石狩では、地元企業が積極的に障がい者雇用の機会を提供してきたという実績がありますし、浜益では、高齢者の方が多いまちでもあり、福祉への配慮がしっかりなされてきたという経緯があります。合併後はますますノーマライゼーション\*の実現への期待と、新しい地域福祉の可能性を信じています。

\*高齢者も若者も、障がいのある人もそうでない人も一緒に生活していくことができる社会が普通(ノーマル)であるとする考え方

木村 昭一さん  
(厚田区小谷在住)

「厚田はまなす園」の園長であり、樽川にある「石狩市知的障がい者支援センター」の統括責任者も兼任。同園近くの「小谷実習寮」で、同園利用者と寝食を共にしながら、週末だけ札幌へ帰るといった単身赴任生活を17年間送っている。



## 環境保全先進都市! 市民の力で進めたい

石狩市に暮らし始めて20年、このまちの魅力はやはり自然だと感じています。今までも石狩砂丘や防風林をはじめ、豊かな自然に恵まれて、他市の友人からもよく「石狩には北海道の自然が全部あるね」と言われましたが、これからは厚田、国定公園のある浜益の魅力も加わって、多くの動植物などに触れ合いながら、豊かな自然への理解を市民の皆さんと深められると思います。また、今では日本一と言われるハマボウフウの保護と増殖に、市民も協力しながら保全をしてきたという経験を生かし、保全に対する意識をお互いに高めていけるよう、活動の輪を広げていきたいです。

現在、昔使われていた山道を活用して石狩-厚田-浜益-増毛をつなぐフットパス\*ができればいいと考えているところです。12月にはパネルディスカッションを主体とした市民企画講座を準備中です。ぜひ、多くの方に参加してもらいたいですね。また、今後は、海浜植物保護センターが環境保全の中核施設の一つとして、情報発信や環境保全への支援活動など、その役割は大きいものと思います。やることがたくさんあって、ワクワクします。 ※イギリスで発祥した「歩くことを楽しむ道」のこと

安田 秀子さん  
(花川北在住)

平成10年9月にこどもエコクラブ紅南探検隊を結成。現在はその代表を務めるほか、石狩浜夢の木プロジェクト代表、石狩海浜植物保護センター運営委員会会長、石狩市教育委員、北海道自然観察協議会理事など自然環境を愛して幅広く活躍。



サケやニシンで栄えた石狩・厚田・浜益。その3つのまちが新しい石狩市としてひとつになりました。かつて、ここは「石狩国」として二つの区域だったところです。これからは、それぞれに培ってきた歴史や文化・伝統を大切にしながら、ともに手を取り合って歩いていきたいと思います。ここでは、実際に各地区で活躍される市民の方に登場いただき、それぞれの立場から新石狩市に抱く夢や希望、抱負などを語っていただきました。

# 「水・緑・風」人が、まちが「光」り輝く 新時代の都市づくりを目指して

ISHIKAWA CITY